

DONALD TYSON
NECRONOMICON
THE WANDERINGS OF ALHAZRED

ネクロノミコン

アルハザードの放浪

ドナルド・タイソン

大瀧啓裕

[訳]



ネクロノ

常州大学図書館
蔵書章

ミ
アル
バ
ードの放浪

D・タイスン
大瀧啓裕訳

学研M文庫

ネクロノミコン アルハザードの放浪^{ほうろう}

ドナルド・タイスン

おおたきけいすけ
大瀧啓裕訳

学研M文庫

2013年4月23日 初版発行



発行人——協谷典利

発行所——株式会社 学研パブリッシング

〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8

発売元——株式会社 学研マーケティング

〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8

印刷・製本——中央精版印刷株式会社

© Keisuke Otaki 2013 Printed in Japan

★ご購入・ご注文は、お近くの書店へお願いいたします。

★この本に関するお問い合わせは次のところへ。

・編集内容に関することは——編集部直通 Tel 03-6431-1511

・在庫・不良品(乱丁・落丁等)に関することは——

販売部直通 Tel 03-6431-1201

・文書は、〒141-8418 東京都品川区西五反田2-11-8

学研お客様センター『ネクロノミコン』係

★この本以外の学研商品に関するお問い合わせは下記まで。

Tel 03-6431-1002 (学研お客様センター)

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

定価はカバーに明記してあります。

本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。

本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。

複写(コピー)をご希望の場合は、下記までご連絡ください。

日本複製権センター TEL 03-3401-2382

<http://www.jrrc.or.jp> E-mail: jrrc_info@jrrc.or.jp

Ⓔ 〈日本複製権センター委託出版物〉

目次

序言

オラウス・ウォルミウス 二〇

アブドウル・アルハザードの生涯について …… テオドールス・ピレータース 二七

ネクロノミコン …… アブドウル・アルハザード 三二

砂漠の咆哮

二四

ロバ・エル・ハリイエーの歓喜

三〇

情欲の魔物と忿怒の魔物

三六

死体を喰らうもの

四〇

柱の林立するイレムの驚異と陷穽

四五

洞窟に棲むものども

五〇

イレムの地下の失われた都市

五五

星に照らされる七つの門の部屋

六一

レン高原に通じる第一の門

六六

高みの都市に通じる第二の門

七二

水没したルルイエに通じる第三の門

ユゴスに通じる第四の門

アトランティスに通じる第五の門

カダスに通じる第六の門

アルビオンの神殿に通じる第七の門

旧支配者について安全に述べられること

土星に対応するイグ

木星に対応するヨグ・ソトース

火星に対応するクトゥルー

太陽に対応するアザトース

金星に対応するシュブ・ニグラス

水星に対応するナイ・アラトテップ

月に対応するダゴン

古の印として知られる旧支配者の大いなる印

地底の河、アザニ

木乃伊の都市メンフィス

魔道士の墓について

七

八

九

十

一〇三

一〇八

一一三

一二〇

一二七

一三五

一四二

一四七

一五四

一六〇

一六四

一七〇

一七四

猫の不可解な習わしとその祭儀

解明されたスフィックスの謎

王の宝庫での蘇生者

本質の塩とその使用

死者の谷

第二瀑布の上の歩く死体

アレクサンドレイアの書籍市場

ジグラットと時を見守るもの

バベルの塔と見守るものの失墜

バビロンの廃墟

ウマルの根とその採取法

エデンの谷

知恵の座

マギ族の修道院

シリウスの子らの内陣

マギ族の秘められた目的

星は何故正しくないのか

一八〇

一八五

一九〇

一九五

二〇〇

二〇六

二二三

二二九

二三六

二四二

二三八

二四三

二四七

二五二

二五六

二六一

二六六

図書館の地下に存するもの	二七〇
何故に旧支配者は死なぬのか	二七六
シヨゴスについて	二八〇
ユグの呪文	二八五
生命の井戸	二九一
ヘブライ人の遺物	二九六
ダマスクスへの街道をさすらうもの	三〇〇
朋輩の儀式	三〇六
シュブニグラスとの契約の条件	三二三
魂の瓶	三三〇
学者の小路	三三五
ダマスクス鉄の秘密	三三〇
ダマスクスの埋葬地	三三五
旅の終わり	三四〇

解

説

.....

大瀧啓裕

三四五

ネクロノミコン

アルハザードの放浪

D・タイスン
大瀧啓裕訳

学研M文庫



目次

序言	オラウス・ウォルミウス	一〇
----	-------------	----

アブドウル・アルハザードの生涯について	テオドールス・ピレータース	二七
---------------------	---------------	----

ネクロノミコン	アブドウル・アルハザード	三
---------	--------------	---

砂漠の咆哮		二四
-------	--	----

ロバ・エル・ハリイエーの歓喜		三〇
----------------	--	----

情欲の魔物と忿怒の魔物		三六
-------------	--	----

死体を喰らうもの		四〇
----------	--	----

柱の林立するイレムの驚異と陷穽		四五
-----------------	--	----

洞窟に棲むものども		五〇
-----------	--	----

イレムの地下の失われた都市		五六
---------------	--	----

星に照らされる七つの門の部屋		六一
----------------	--	----

レン高原に通じる第一の門		六六
--------------	--	----

高みの都市に通じる第二の門		七二
---------------	--	----

水没したルルイエに通じる第三の門

ユゴスに通じる第四の門

アトランティスに通じる第五の門

カダスに通じる第六の門

アルビオンの神殿に通じる第七の門

旧支配者について安全に述べられること

土星に対応するイグ

木星に対応するヨグ・ソトース

火星に対応するクトゥルー

太陽に対応するアザトース

金星に対応するシュブ・ニグラス

水星に対応するナイ・アラトテップ

月に対応するダゴン

古の印として知られる旧支配者の大いなる印

地底の河、アザニ

木乃伊の都市メンフィス

魔道士の墓について

猫の不可解な習わしとその祭儀

解明されたスフィックスの謎

王の宝庫での蘇生者

本質の塩とその使用

死者の谷

第二瀑布の上の歩く死体

アレクサンドレイアの書籍市場

ジグラットと時を見守るもの

バベルの塔と見守るものの失墜

バビロンの廃墟

ウマルの根とその採取法

エデンの谷

知恵の座

マギ族の修道院

シリウスの子らの内陣

マギ族の秘められた目的

星は何故正しくないのか

一八〇

一八五

一九〇

一九五

二〇〇

二〇六

二二三

二二九

二三六

二四二

二三八

二四三

二四七

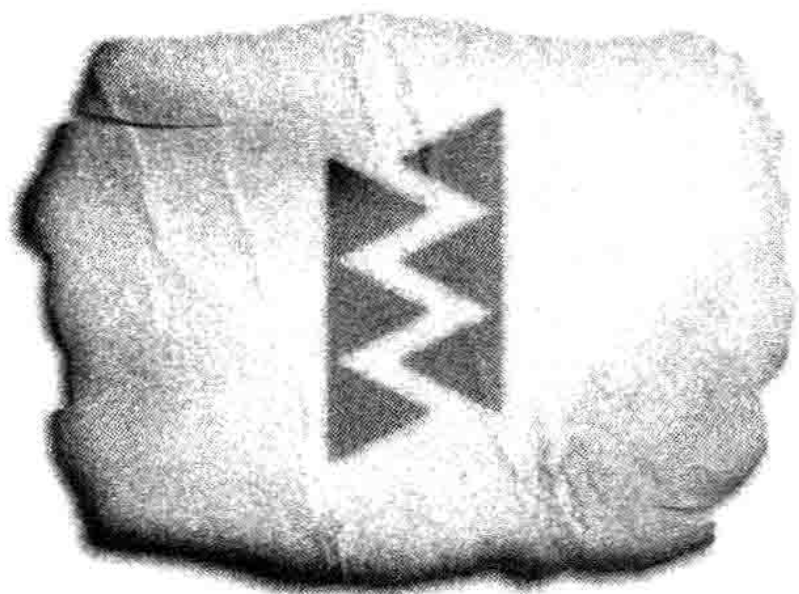
二五二

二五六

二六一

二六六

図書館の地下に存するもの	二七〇
何故に旧支配者は死なぬのか	二七六
シヨゴスについて	二八〇
ユグの呪文	二八五
生命の井戸	二九一
ヘブライ人の遺物	二九六
ダマスクスへの街道をさすらうもの	三〇〇
朋輩の儀式	三〇六
シュブニグラスとの契約の条件	三二三
魂の瓶	三三〇
学者の小路	三三五
ダマスクス鉄の秘密	三三〇
ダマスクスの埋葬地	三三五
旅の終わり	三四〇



NECRONOMICON : The Wanderings of Alhazred
by Donald Tyson

“Translated from” NECRONOMICON :
THE WANDERINGS OF ALHAZRED

Copyright © 2004 Donald Tyson

Published by Llewellyn Publications

St.Paul, MN 55164 USA

www.llewellyn.com

japanese translation published by arrangement with
Llewellyn Publications through The English Agency (Japan) Ltd.

ラテン語版及びギリシア語版序文

序 言

オラウス・ウォルミウス

紀元一二二八年

ギリシア人には *Nekropoion* として、あるいはラテン文字に転写された *Necronomicon* として知られる著作については、はなはだ稀少で入手が困難になり、高額な代価を支払わざるをえず、これをラテン語に翻訳することは、手を染めるに値しない作業とは思えなかった。この著作の内容は、精神を高揚させたり、道徳上の教訓を授けるものではなく、邪悪さにおいて、キリスト教圏の他の書物すべてを凌駕する。翻訳をおこなう理由は唯一つ、この著作が秘められた知恵を蔵するがゆえであり、目下この国に暮す人びとの存命中にも、わずかに現存するギリシア語文献に起こりうるような、監察官の炎や虫の餌食にでもなれば、こうした知恵が確実に失われてしまうからである。当世の聖職者は、サタン本人が著したものとして、この呪われた著作を悪しざまに非難する。

この著作の真の著者については、歴史に賢者として名を残す、書記のテオドー